



日本キリスト教団  
**三軒茶屋教会**

<http://www.purple.dti.ne.jp/sangenjayachurch/>

# 三軒茶屋 教会通り

〒154-0024

第30号 2007年8月発行

東京都世田谷区三軒茶屋 1-31-5

TEL/FAX: 03-3418-4933

発行: 三軒茶屋教会 広報部

二〇世紀後半の最も有名なキリスト者を二人挙げるとすれば、一人はマルチン・ルーサー・キング牧師であり、もう一人はマザー・テレサであります。キング牧師は一九六四年に、マザー・テレサは一九七九年にノーベル平和賞を受賞したことで知られています。ところで、この二人は「人間の解放」を目ざした活動で共通点をもっていますが、わたしたちキリスト者にとつては、偶然とは言え、象徴的な二つの方向を示唆しているのです。

聖書の歴史には、歴代の王たちの政治が墮落し、国の存亡の危機に何度か陥った時がありました。その都度、預言者が立ち上がり、王やその体制に鋭く神の言葉をもって臨みました。また、民衆の生活の中にもさまざまな問題が生じ、宗教的祭儀をもって修復を図ることを律法によって定められていました。その執り成しをするのが祭司という存在です。預言者はその時代に向けて警鐘を鳴らし、世直しを行う。祭司は民衆の苦悩を共に担っていく。これが二種の職務であります。

## 福音の証人に続く

### 牧師 陣内厚生

もうお分かりでしょう。キング牧師の活動は、理不尽な米国の構造的黒人差別に対して、公民権獲得運動を展開し、遂に国家を動かしたのであります。これこそ現代の「預言者」的像と言ふ他ありません。一方、マザー・テレサは一修道女でしたが、インドのコルカタで、捨てられた孤児やハンセン病患者、路傍で死にかけている病人たちを「死を待つ人の家」に収容し、最期の時間を人間らしく愛をもって看とる働きをしました。ま

さに「祭司」の極致です。この二つのタイプは、わたしたちキリスト者の、この世への関わり方を暗示していると言えるでしょう。わたしたちは、この二人の業績にとうてい達し得ませんが、そこにある秘められた信仰のステップを見なければなりません。聖書は旧新約とも人間の解放を謳い、歴史の中に問題の打開点を示しています。要約し言うなら、聖書の神は、虐げられたいと小さき者たちの神であつて、

神はこの小さき者を解放しようとして、預言者を通じて一人の「主の僕」の像を指し示しました。それがイエス・キリストによって成就したのであります。このかたの生き方、苦難を一身に負い、傷つきながらも真実を貫いて生きる道。覇権の道ではなく、人間に仕える道をイエス・キリストはとられたのでした。



「実に、キリストはわたしたちの平和であります。…十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ばされました」

(エフエソ二の一四〜一六)。この福音理解に立つとき、あの二人の信仰が燃え上がり、イエス・キリストと一体とされ、生涯の証しとなつていったに違いありません。

わたしたちの信仰もまた、ここ十字架の地点に立たなければなりません。「平和を実現する人々は、幸いである」(マタイ五の九)と説かれたイエス・キリストの激励と祝福を信じて、預言者のように堂々と立ち向かい、祭司のように命をいとおしむ働き人でありたいのです。それはきょうから始めることができます。